

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2143

日本語科学

Japanese Linguistics

16

2004年10月

October, 2004

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

Tokyo, Japan

日本語科学 16

Japanese Linguistics 16

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

2004年10月

October, 2004

研究論文 Articles

隠喩の意味することと行うこと

What does a metaphor mean and perform?

杉本 巧 SUGIMOTO Takumi

5

若年層関西方言の否定辞にみる言語変化のタイプ

The types of language change in Kansai dialect: Observed in the usage of three negative suffixes in the young generation

高木 千恵 TAKAGI Chie

25

標準語形初出年と鉄道距離重心

— 鉄道距離・使用率・初出年の3D散布図と東西クラスター —

First year of appearance of standard Japanese forms and gravity center by railway distance: East and west clusters in 3D distribution graphs of railway distance, usage rate and first year of appearance

井上 史雄 INOUE Fumio

47

新造オノマトペの音韻構造と分節の無標性

Phonological structure of mimetic neologisms and segmental unmarkedness

那須 昭夫 NASU Akio

69

研究所報告 NIJLA Report

『日本語話し言葉コーパス』における単位認定基準について

小椋 秀樹 山口 昌也 西川 賢哉
石塚 京子 木村 睦子

93

世界の言語研究所 (16) 沖縄言語研究センター (日本)

かりまた しげひさ

114

既刊内容 (第12号～第15号)

査読者一覧 (第13号～第16号)

投稿規定・執筆要領

編集後記

既刊内容（第12～15号）

【第12号】（2002年10月）

「引く」ということ	安永 尚志
「する」と「やる」－非動作性名詞がヲ格に立つ場合－	大塚 望
比較構文に出現する程度副詞－スケールの相違という観点から－	川端 元子
副詞の共起形式に関する史的変遷－推量のモダリティ副詞を中心に－	小池 康
多重主格構文の派生と解釈	中村 裕昭
明治期における近代哲学用語の成立－哲学辞典類による検証－	朱 京偉
付属語「きり」の用法の変遷について－江戸語・東京語を中心に－	渡邊ゆかり
非意図的であることを表す副詞（的機能を持つ表現）の意味分析	
－うっかり(と), うかうか(と), うかつに, うかつにも－	李 澤 熊
世界の言語研究所（12）マックス・プランク心理言語学研究所（ドイツ, 在オランダ）	喜多壮太郎
平成14年度 国立国語研究所公開研究発表会ご案内	
第10回 国立国語研究所国際シンポジウム報告	

【第13号】（2003年4月）

分野を超えて対話可能な言語表現を	杉田 繁治
形容詞の中止形を用いた複文における先行句節と後続句節の関係	津留崎由紀子
もののかずをあらわす数詞の用法について	加藤 美紀
介護現場のカタカナ語	中山恵利子
英語に入った日本語語彙の初出年調査	早川 勇
ハズダとニチガイナイについて－両者の置き換えの可否を中心に－	岡部 嘉幸
世界の言語研究所（13）欧州現代言語センター（オーストリア）	杉本 明子
第10回 国立国語研究所国際シンポジウム報告	
平成14年度 国立国語研究所公開研究発表会報告	

【第14号】（2003年10月）

全体から細部を見る	山口 佳紀
同年代の初対面同士による会話に見られる「ダ体発話」へのシフト	
－生起しやすい状況とその頻度をめぐって－	陳 文 敏
漢字平仮名交じり文中における表記の選択	
－博文館『太陽』における外国地名の漢字表記と片仮名表記－	深 澤 愛
Learning simple and complex rules: Acquisition of Japanese location particles and conjunctural auxiliaries	Mariko MOROISHI WEI
Markedness in casual speech	KAWAI Junji
エントロピーと冗長度で表現の多様性と規則性を表す試み	
－韓国語系日本語学習者の敬語表現を例に－ 玉岡 賀津雄／宮岡 弥生／林 炫情	
世界の言語研究所（14）国立英語学習到達研究センター（アメリカ合衆国）	杉本 明子

【第15号】(2004年4月)

「もっと」の否定的用法について	佐野由紀子
日韓断り談話に見られる理由表現マーカー -ウチ・ソト・ヨソという観点から-	任 炫 樹
小説における補文標識「の」「こと」の使い分けについて	
-語り手の心的態度の観点から-	尾野 治彦
在日コリアン一世の大阪方言アクセントの習得	
-濟州道方言話者と慶尚道方言話者の場合-	高 千 恵
『附音挿圖 英和字彙』における漢字表記語の性格 -二字表記語の調査-	李 慈 鎬
『日本語話し言葉コーパス』の概要	前川喜久雄
世界の言語研究所 (15) 北京日本学研究センター (中国)	徐 一 平

査読者一覧 (第13~16号)

(五十音順、敬称略)

青山文啓, 浅野敏彦, 足立さゆり, 安達太郎, 安部清哉, 伊藤雅光, 井上文子, 井上優,
宇佐美まゆみ, 梅田博之, 江口正, 大鹿薫之, 大島資生, 大塚みさ, 大西拓一郎, 大浜るい子,
岡本真一郎, 岡本能里子, 荻野綱男, 小椋秀樹, 生越直樹, 生越まり子, 角道正佳,
柏野和佳子, 蒲谷宏, 木川行央, 北沢尚, 金秀芝, 窪蘭晴夫, 熊井浩子, 熊谷智子, 小磯花絵,
西條美紀, 斎藤純男, 佐々木嘉則, 沢木幹栄, 正保勇, 城田俊, 菅井英明, 杉本明子, 杉本武,
楯本総子, 田中ゆかり, 田端敏幸, 玉村文郎, 辻大介, 土屋信一, 坪本篤朗, 中畠孝幸,
永瀬治郎, 新野直哉, 西谷健次, 丹羽哲也, 沼田善子, 野田春美, 野田尚史, 野間秀樹,
橋本修, 蓮沼昭子, 服部匡, 服部裕幸, 林明子, 早津恵美子, 日比谷潤子, 福井玲, 藤井聖子,
藤本雅子, 堀口純子, 前川喜久雄, 前田富祺, 前田直子, 益岡隆志, 松岡洸司, 松木正恵,
松田謙次郎, 三井はるみ, 三原健一, 三宅和子, 宮島達夫, 初山洋介, 森本郁代, 矢澤真人,
山岡政紀, 山崎誠, 山下仁, 山田貞雄, 山田進, 山中信彦, 湯浅茂雄, 横山詔一, 吉川武時,
吉野文

『日本語科学』投稿規定・執筆要領

(2004年10月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回（4月、10月）発行する。（投稿の受付は随時）

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類、分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお、原則として、対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量（タイトル、氏名、キーワード、要旨、概要を含む）は以下のとおり。

研究論文：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。（20ページ程度）

調査報告：調査結果の記述を主とする報告。（20ページ程度）

研究ノート：問題提起、事例報告、中間報告などの小論文。（10ページ程度）

各投稿原稿は、CD-ROMの形でデータやプログラム等を添付することができる。

この他、所内外の研究者に**展望論文**（研究動向、現時点での課題、将来の展望などについて論じた論文、20ページ程度）、**書評論文**（20ページ程度）の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字(簡体字・繁体字)、ハングル、キリル文字、ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化）。
- 2) 原稿はA4判横書き、43字×36行で作成する。（編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き、30字×21行×2段。）英文の場合はマージン上下2.5cm、左右2cm（フォント12ポイント、1.5スペース）を目安に原稿を作成する。
- 3) 研究論文及び調査報告には、**キーワード**（5つ以内）、**要旨**（問題と結論の要約、10行程度）、**概要**（議論全体の概要、英文は250語以内、邦文は20行以内）をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。邦文論文の場合、要旨・キーワードは日本語、概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードもつける）。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語、概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードもつける）。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献は、邦文・欧文・その他の文字の順で、字種ごとにまとめたうえで、辞書順に配列する。文献一覧の書式は以下のとおり。

著者名（発表年）「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合）ページ発行所

例：井上優・生越直樹（1997）「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会。

宮島達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版。

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions, In H. Hiz (ed.) *Questions*, 87-105, Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

- 5) 付属CD-ROMにデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は、査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名（ヨミガナ）／所属・職名／大学以降の学歴（卒業・修了・退学後10年未満の場合）／連絡先（住所・電話番号・E-mail。共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を、別紙と電子データ（フロッピーディスク）とに明記のうえ、原稿一式を編集委員会に送付する。原稿は、著者名の入ったもの2部と、無記名のもの2部を同封する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

- 1) 他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理、及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は、著者の責任において行うこと。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。
- 3) 掲載された論文等の要旨は、*Linguistic Abstracts*（アリゾナ州立大学編集）に英文で掲載される。

投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

問合せ先、文書・FAXまたは電子メールで編集委員会まで。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

FAX 03-3906-3530（共用につき『日本語科学』編集委員会宛明記のこと）

E-mail kagaku@kokken.go.jp

URL <http://www.kokken.go.jp/public/kagaku.html>

Instructions for Submitting Manuscripts to *Japanese Linguistics*

1. Purpose of the Journal

The purpose of this journal is to contribute to the development of a variety of different fields in the study of Japanese. To this end, it publishes the results of research done at The National Institute for Japanese Language (formerly The National Language Research Institute), as well as research conducted elsewhere that is deemed relevant to the interests of the Institute.

2. Time of Publication

The journal is published twice a year in April and October. Manuscripts can be submitted anytime and are processed throughout the year.

3. Qualifications for Submission

No special qualifications are required of authors, but all manuscripts must conform to the goals of the journal.

4. Content, Categories and Length of Manuscripts

All manuscripts must be previously unpublished. As a rule, their focus should be on the time period after mid-Meiji. The categories and approximate lengths of manuscripts (including title, name, keywords, abstract, and summary) are as follows:

- 1) **Articles:** Research papers presenting original ideas (about 20 pages).
- 2) **Reports:** Descriptive reports of research, surveys and questionnaires (about 20 pages).
- 3) **Notes:** Short papers that raise questions, case studies, and interim reports of ongoing research (about 10 pages).

Manuscripts may also be accompanied by a CD-ROM of data and programs that will supplement the journal.

The journal may also ask researchers outside the Institute to write prospect papers (i.e., papers on trends in research, current research issues, or future research prospects) (about 20 pages), or book reviews (about 20 pages).

5. Style

- 1) Manuscripts should be written in Japanese or English. Chinese characters (simplified or traditional), Hangul, Cyrillic and Greek characters or letters can also be used in examples. All other orthographic symbols should be transcribed in the Latin alphabet.
- 2) Japanese manuscripts should be submitted in horizontal format with 43 characters x 36 lines on A 4 (or 8.5" x 11") paper. (Manuscripts can be submitted in vertical format only with the approval of the editorial committee. Such manuscripts should be prepared with 30 characters x 21 lines in two sections). English manuscripts should be prepared on A 4 (or 8.5" x 11") paper and typed on one side only with 2.5 cm margins at the top and bottom and 2 cm margins on the left and right. 12 pt. typeface should be used with line spacing set at 1.5 lines.

- 3) All manuscripts should have Japanese and English titles. **Articles** and **Reports** should contain the following elements:

Japanese articles and reports:

- a) Keywords in Japanese (up to 5 words) and English equivalents
- b) Abstract in Japanese (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in English of the overall argument (about 250 words)

English articles and reports:

- a) Keywords in English (up to 5 words) and Japanese equivalents
- b) Abstract in English (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in Japanese of the overall argument (about 20 lines)

Notes should contain the following elements:

- a) Keywords (up to 5 words) in the language of the text
- b) Abstract in the language of the text (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body

For all manuscripts, it is the responsibility of the contributor to have the Japanese or English portion of his /her manuscript checked by an educated native speaker of the language.

- 4) Notes and references should be provided at the end of the manuscript.

All works referred to should be sorted by kind of orthography (Japanese first, followed by European language, and then others) and be listed in dictionary order in each language, as follows:

井上優・生越直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」
『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会.

宮島達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions, In H. Hiz (ed.)
Questions, 87-105, Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions, *Language* 51, 1-31.

- 5) Contributors wishing to submit material for inclusion in a supplementary CD-ROM should contact the editorial committee to obtain their consent regarding the format and file-size.

6. Review Procedures

Manuscripts will be read anonymously by two referees appointed by the editorial committee: all manuscripts will be reviewed according to the journal's guidelines. committee will determine whether a manuscripts is to be published, based upon the results of the referees' reports. All contact between referees and authors (regarding referees' questions, comments and suggestions and the author's response) will be carried out via the editorial committee.

7. Procedures for Manuscript Submission

Manuscripts are accepted and processed at any time. All manuscripts sent to the editorial

committee should be accompanied by an information sheet that includes: 1) author's name (with Katakana reading), 2) affiliation and title, 3) university level education and higher (if within the last 10 years) 4) contact address, telephone number, and e-mail address. (In case of a co-authored work, only the primary author's address, telephone number, and e-mail address should be included.), and 5) category of manuscript (article, report or notes). A floppy disk containing the same information from 1) to 5) should also be enclosed. Four copies of the manuscript (two with author's name and two without author's name) should be sent together. As a rule, manuscripts will not be returned to authors.

8. Corrections and Revisions of Manuscripts

After the editorial committee makes a decision to publish a manuscript, they may request that the author make changes to the style and format. The committee may also make minor format changes at its discretion. Once the decision to publish a manuscript is made, the author will not be allowed to make any further changes to his/her manuscript, except where revisions are requested by referees and the editorial committee.

9. Copyright

- 1) Authors are responsible for obtaining written consent from research subjects, as well as permission to use any copyrighted material or databases as a source in their manuscripts.
- 2) The copyright for all papers published in the journal belongs to The National Institute for Japanese Language (according to the Copyright Law of Japan, including Articles 27 and 28).
- 3) Summaries of published articles appear in *Linguistic Abstracts* (Arizona State University) in English.

Manuscripts should be submitted to:

Editorial Committee, Japanese Linguistics
The National Institute for Japanese Language
3-9-14 Nishigaoka, Kita-ku, Tokyo 115-8620 JAPAN

For further information, contact the editorial committee at the above address or send a fax or e-mail to:

FAX: 03-3906-3530

E-mail: kagaku @ kokken.go.jp

編集後記

国立国語研究所は来年（平成17年）1月に立川市に移転します。新庁舎もほぼ完成し、所内では移転に向けた準備が着々と進んでいます。この『日本語科学』16号が現在の西が丘庁舎で編集される最後の号ということになります。『日本語科学』の刊行元の国書刊行会は、地理的に「ご近所」の関係にあり、発刊以来の担当者である力丸さんには、一つの号が完成するまで、幾度となく国語研究所と国書刊行会との間を往復していただきました。しかし、移転後はそのような密なやりとりは難しくなります。移転後の編集作業をいかにスムーズにおこなうかが、次号の編集にむけた課題の一つということになります。

私が委員長になってから、これまでに34件（査読中のものを除く）の投稿がありました。採択件数は11件ですので、採択率は32.4%ということになります。投稿は随時受け付けますので、今後とも活発なご投稿をお願いいたします。

『日本語科学』では4号に1回査読者一覧を掲載しております。今号には12号から16号の編集過程で査読にご協力いただいた方の一覧を掲載しております。査読に御協力いただいた方に心より御礼申し上げます。

編集委員交代のお知らせです。杉本明子（日本語教育部門）が任期満了のため編集委員を退任し、今号の編集から新たに根本総子（日本語教育部門）が加わりました。専門は会話分析です。この分野の投稿が増えることを期待したいと思います。（井上 優）

編集委員

井上 優（委員長，国立国語研究所）	斎藤 達哉（国立国語研究所）
青山 文啓（桜美林大学）	根本 総子（国立国語研究所）
安部 清哉（学習院大学）	福永 由佳（国立国語研究所）
小椋 秀樹（国立国語研究所）	三井はるみ（国立国語研究所）
小磯 花絵（国立国語研究所）	山崎 誠（国立国語研究所）

『日本語科学』16

2004年10月30日 発行

編 集 国立国語研究所
『日本語科学』編集委員会
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL. 03-3900-3111(代表)

発 行 国 書 刊 行 会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL. 03-5970-7421 FAX. 03-5970-7427

印 刷 株式会社エーヴィスシステムズ
製 本 村上製本所

(平成16-4)